

表題：第15回瑞穂町の協働を考える会議 概要

- 1 日 時 平成26年7月8日（火曜日） 19時05分から20時20分
- 2 場 所 町民会館 第1会議室
- 3 出席者 （構成員） ※以下出席者について敬称略
榎本和己、加戸佐織、古宮郁夫、中沢清、野本多恵子
（瑞穂町協働施策推進アドバイザー）
辻山幸宣
（事務局）
栗原裕之（住民部長）、古川実（住民部地域課長）、水村探太郎（住民部地域課地域係長）、吉岡佐知代（住民部地域課地域係主任）、福島聡（住民部地域課地域係主任）
- 4 欠席者 香取幸子、川口尊、近藤隆幸、清水久央
- 5 議 題
 - 1 パブリックコメントの結果について
 - 2 協働宣言の実現に向けた提言について
 - 3 その他
- 6 配付資料
 - 1 次第（当日配付）
 - 2 第14回瑞穂町の協働を考える会議まとめ（事前配付）
 - 3 提言書構成（案）（事前配付）
 - 4 提言までのスケジュール（案）（事前配付）
 - 5 パブリックコメントの結果（当日配付）
- 7 あいさつ
栗原部長
- 8 開会
古宮座長

議題1 パブリックコメントの結果について

事務局の説明

- ・ 一般の方から4件、小中学生から12件の意見をいただきました。
- ・ 職員からの意見募集を同時並行で実施しています。
- ・ 8月の会議では、パブリックコメントや職員から募集した意見をもとに最終的な調整を行いたい。

【質疑応答】

なし

議題2 協働宣言の実現に向けた提言について

事務局の説明

- ・ 前回会議後、辻山アドバイザーのところに赴き、今後の流れについて相談し、その結果を資料2、3にまとめました。
- ・ 次回の会議までに今回のワークショップの内容をまとめ、その内容を検討していただきます。
- ・ 会議の議題を1つやるのか、2つまとめてやるのかは会議の進ちょく状況により調整します。
- ・ 資料2では、今までの会議で出た意見をもとに、提言とすべき4項目をピックアップしました。なお、今回提示した資料について、辻山アドバイザーから補足はありませんでした。

※ 2つの班に分かれ、「協働の周知・啓発」をテーマにしたワークショップを実施

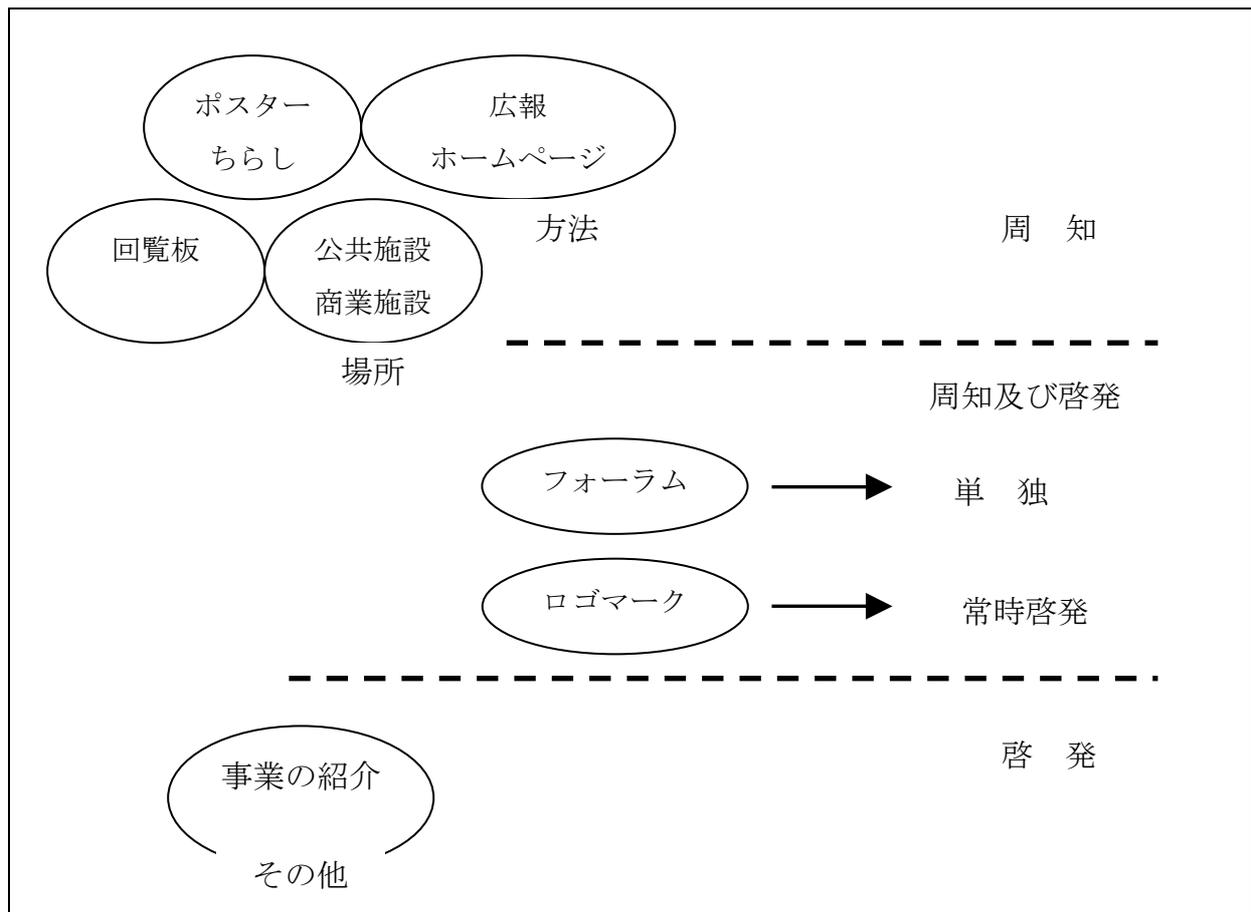
1班（加戸沙織、榎本和己、古川課長、水村係長）

2班（中沢清、野本多恵子、栗原部長、地域係吉岡、地域係福島）

※ ワorkshop終了後、1班2班の代表者が発表

※ 1班2班のまとめは下記のとおりで、まとめ用紙の内容を転記

1班まとめ



【1班発表】

- 周知については、公共施設や商業施設にポスターやチラシを貼り付けてはどうかという意見がありました。広報やホームページも方法のひとつとしています。回覧板を回覧することで周知するという意見もありましたが、それが徹底している地区とそうでない地区に開きがあり、また、公平に情報が行き届くのか不明な点があることから、方法のひとつとするまでとはいかないのではないかと感じています。
- フォーラムを開催したり、ロゴマークを作成してはどうかという意見がありました。それは周知でもあり、啓発にもなるのかなと思っています。フォーラムは単独で年に何回とかイベントとしてやる感じで、協働事業のポスターやチラシをつくる時に何らかのマークのようなものをつくって、マークが付いているものが協働事業だと分かれば、常時啓発できるのではないかと意見がありました。
- その他の啓発と思われる部分で、例えば、既に行われているが全く知られていなかったりする協働事業もあつたりするので、認識を高めるために、町では既に協働事業が行われているということをホームページなどで発表していくという意見がありました。産業課で観光だけを紹介するサイトをつくったりもし

ているのですが、それと同じような形で、「こんな協働事業をやっています。」
ということや、「これからこんなことをやります。」ということ啓発していけば、その後につなげていけるのではないかと思います。

2班まとめ

メディア

町のホームページ・広報でのPR

子ども

子どもがかかわることができるイベント・ボランティア活動

イベントと活動

シンポジウム・フォーラムの開催

ネットワーク

協働を実施している団体、ボランティア団体のネットワーク化

広報物

ポスター、チラシの作成・設置、イメージキャラクター・マークの作成

伝える人

言葉の意見を伝えられる人、口コミで伝えていく

掘り起こし

様々な活動を掘り起こしていく

【2班発表】

- ・まとめには書いていませんが、協働の始まりとして、挨拶が一番大事ではないかという意見がありました。挨拶することで人と人のコミュニケーションが始まるからです。
- ・挨拶の次に重要なのは、伝えていくことです。口コミで伝えていく強さですね。伝える人が出てくると、今度は協働だと思われていなかったことも実は協働だったということで、現在行われている活動が掘り起こされていくことがあります。
- ・活動を掘り起こしていくと具体的に何をやっているのか、どういうことが参加できるのかが見えてきて、その中から子どもが関わることのできるボランティア活動などが出てきたりすると思います。
- ・イベントや活動を行うということもあります。実際に、ボランティア作業や共同作業的なことを行っていくことです。その中からネットワークをつなぐことで最終的にシンポジウムのようなものが開催できるのではないかと思います。

た。

- ・ 実際に活動をしていく中でどう伝えていくかを考えていくと、それが形になっていくと思いますので、広報やロゴマークなんかも大事ですが、もうちょっとボトムアップではありませんが、下から上がってくるものが必要ではないかと思いました。
- ・ 町のホームページや広報でPRすることができます。
- ・ 文字ではなかなか見ないと思いますので、ちょっと見たら流れが分かるような広報物や協働が一目で分かるマークやイメージキャラクターがあったら良いのではないかと思いました。
- ・ 難しいかもしれませんが、窓口があって、「協働とは何か。」をある程度伝えられる人がいないと、人によって解釈が違うといったことが起きてしまうと思います。窓口で話ができたり、町の中で協働ということに対してきちんと話ができる人をつくるということで、人材をつくることが大事なのではないかと思いました。
- ・ 主観も入りますが、広報、書面、ホームページで周知しても、見ている人は限られていると思いますので、やはり人の力が重要ではないかと思います。
- ・ 自分が全町一斉清掃などに行ったりすると、普段見ない人と顔を合わせたりします。誰もが関わっているが気づいていない協働というものを掘り起こして、それを伝えていくと、身構えることもないのではないかと思いました。上からものを言わない感じが良いと思いました。

【意見交換】

- ・ 広報といった意見もありましたが、ゴミの袋のようなものも広報として使えたらと思いますよね。ゴミの収集車など動く媒体もありますよね。
- ・ 自分がボランティアをやっている中で、協働やボランティアという言葉を使えば使うほど来なくなる人が増えるという現実があります。難しくて時間が掛かりますが、人のつながりを使って浸透させていくには長い時間が必要ではないかと思いました。
- ・ マウンテンバイクで遊んでいる中で、「皆で山を整備しよう。」というと来るんです。これが、「ボランティアでやろう。」という来なくなります。別にそんな意味で言っていないなくても、言葉で人は身構えてしまいます。
- ・ 協働した方が損だとか、ボランティアした方が損だという考えを持っている人もいますので、周知させていく上で、いかに柔らかく表現していくかが重要であると思います。回覧板で回ってきたものに協働と書いてあったりすると結構負担になったりします。「本当はやりたいけど、自分は手伝えない。」となっ

まうので、発表するにあたっては上手にやらないといけないと思いました。

- ・ ロゴマークなどを付けた方が、受け入れやすくなるかもしれませんね。
- ・ パブリックコメントにある子どもの意見がすごく良くて、シンプルですよ。損得とかもないので、こういったものからうまく伝えていくと良いのではないかと感じました。

結 論

- ・ 今回行ったワークショップの内容については、事務局でまとめ、次回の会議のときに、まとめについて討議していただくこととしました。

アドバイザーからの講評

- ・ 私も小学生の意見に目を奪われました。何かして欲しいという意見はほとんどありませんね。何かをして、こんな町にしたい、ゴミ拾いをしたいといった意見に感服しました。もう既に協働の担い手が育っているのではないかと思います。
- ・ こういう発想は大切だなということですが、私のゼミの学生を連れて、浅川のゴミ拾いを2年くらいやったことがあるのですが、結局やった人間だけが爽快感に浸れるということで、満足感は味わってみなければなかなか分からないものだと感じました。周知啓発といったところで、どうやって楽しさや満足感などを伝えていくかが大切だと思います。
- ・ 共通して注文をつけるとすれば、ホームページや広報誌を作成するのは役場であるという考えが前提になっていないかと思いました。これも実は協働のようなことが可能ではないかを追求してみても良いのではないかと思いました。練馬区のある団地のことですが、その団地の中に委員会があって、その団地の出来事についてはその人たちが記事を書いて、掲載するというのもしています。行政からのお知らせという形ではなく、一緒になって広報誌をつくっていくということが可能かどうか分かりませんが、検討してみる価値はあるのではないかと感じました。
- ・ 協働といわなくても良いのですが、仲間に、「何かやろう。」というときも、楽しさがあることや健康づくりにも役立つというアピールがあっても良いのではないかという気がしました。

議題3 その他

事務局の説明

- 本日欠席した委員からの伝言を報告しました。(内容：自身が兼任している男女共同参画の会議において、産業まつりのときに毎年川柳を役場のところに掲示してPRしているが、そこにテントを張り、協働も一緒に参加してみてもどうかと提案したことについて。)
- 次回の会議日程を調整しました。